

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K17598

研究課題名(和文) 蒐集と博物学：松森胤保の蒐集活動と博物図譜の作成に関する研究

研究課題名(英文) Collection and Natural History: Study about Matumori Taneyasu's collecting activity and Natural History art Books.

研究代表者

安田 容子 (YASUDA, YOKO)

東北大学・災害科学国際研究所・助教

研究者番号：60726470

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、松森胤保の蒐集活動に注目し、蒐集記録である『家蔵五玩雑録』の翻刻と分析を行い、そのうち、生物に関する蒐集の多い巻一についてのみ、翻刻資料集を作成した。『家蔵五玩雑録』巻一にあたる江戸時代から明治年までの時期には、動植物や貝がらなど、生物に関する資料を中心に蒐集していたが、明治10年以降、積極的に蒐集活動を行うものの、生物関係資料は少なくなり、採集による個体の蒐集より、剥製や嘴などの部分を店で購入することによる蒐集が多くなっていった。蒐集物の変化は、博物図譜作成に直接つながる行為である。『家蔵五玩雑録』に記録された蒐集物が『両羽博物図譜』作成の基盤となっていることを提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、松森胤保の未公開資料のうちの一冊を翻刻公開し、内容を分析することによって松森胤保の蒐集活動への意識および彼の周辺における蒐集について明らかにした。近代における地方科学者の開物学に関する意識および、博物館構想について明らかにしたことは、科学史研究への一助となる。また、巻一の写真付きの翻刻資料集の刊行は、科学史研究のみならず、生物学等の研究者による分析が可能になり、今後、博物図譜を通じた学際研究へとつなげていくことができる。さらに翻刻資料集の作成は、地域における地域資料の活用へとつながる。

研究成果の概要(英文)：Matsumori Taneyasu was a local scientist and inventor in early 19th century Japan. He is known for his unique theory of evolution and technology, as well as for local politics and being a local natural scientist. This research analysed one of his private notes, and introduced his collecting activity for making of the illustrated natural history book of plants and animals. Kazo Gogan Zatsuroku is his private notes about his collected materials classified five categories: mineral, stone tool and earthenware, sea shell, plant and animal, and man-made material. He collected natural materials energetically, particularly material products in the Shonai local areas. In Shonai area, there were some collectors of natural materials, and he obtained lots of materials from these collectors. During 1880s, he preferred to buy parts of animals than collecting natural materials. His change of interests for collected materials were to write natural history book of plants and animals in Shonai area.

研究分野：人文科学

キーワード：蒐集 博物図譜 松森胤保

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

松森胤保は近世から近代にかけての変化の時期において政治、教育、科学、文学、産業、機械工学、写真学等様々な側面で活躍した多才な人物である。『両羽博物図譜』を著した博物学者としての面が紹介され、研究されることはあるが、彼の活躍の場は庄内地方に限られており、著作も原稿のみで刊行されることはなかったため、その多才な活動はあまり多くの人には知られていない。彼の著作についても、酒田市光丘文庫所蔵の松森胤保著作は、現在そのすべてがデジタルデータ化されており、閲覧することが可能となっているが、個人所蔵の松森胤保著作については、その紹介についても、ほとんどされてこなかった。200点以上に及ぶその他の彼の著作や記録については、まだ詳しく調査されていない資料も多く、『両羽博物図譜』制作に至るまでの過程など、松森胤保の博物学者としての一面についても未だ解明されていない部分は多い。本研究計画では、モノの蒐集という行為に注目し、彼の著作『家蔵五玩雑録』全5冊を研究対象の中心に据える。本書には、『両羽博物図譜』中の動植物と同じモノについての記録もみられるほか、蒐集した様々なモノについて図とともに詳細に記録しており、博物図譜ともいべき特徴を持った資料である。さらに、本書には、彼が蒐集したモノの情報だけでなく、蒐集関係者のネットワーク等、松森胤保の制作背景を知る上で重要な情報も含まれている。松森胤保の周辺をみると、弟の樋越隆胤、友人の羽柴雄輔が奥羽人類学会(初代会長は松森胤保)の創設に係わり、古物蒐集家でもあることが知られている。また、羽柴雄輔は、鳥井龍蔵、坪井正五郎、白井光太郎らとの交遊があることが知られており、『両羽博物図譜』にみられる松森胤保の独自の理論の形成にはこれらの人物からの情報も少なからず影響している。松森胤保の記録をひもとくことで、『両羽博物図譜』作成に至る情報やモノの流れ、松森胤保の周辺人物とモノの蒐集に対する関係について、弟や友人はじめ庄内地方の関係者を明らかにすることができる。

2. 研究の目的

(1) 松森胤保の蒐集活動の解明

個人所有の資料を翻刻、分析することで、松森胤保の地域における蒐集活動と博物図譜作成の関連を明らかにする。また、松山におけるモノの蒐集のネットワークを明らかにする。

(2) 翻刻資料集の作成と地域への還元

翻刻のほとんどない松森胤保著作の翻刻資料を刊行することで、翻刻資料集を作成し、鶴岡や酒田市松山地区など、松森胤保に関連する地域に対し、彼の活動や彼の著作を地域に紹介することで、地域の歴史文化を再確認するための一助とする。

3. 研究の方法

松森写真館での現地調査により、資料写真を撮影し、写真をもとに翻刻資料の作成および資料内容から松森胤保の蒐集活動について考察を行った。現地調査では、松森写真館の松森昌保氏に資料の伝来や先祖についての話をうかがい、松森家における資料の位置づけについての情報収集を行った。また、松森胤保の蒐集に関わる人物として、酒田市光丘文庫所蔵の松森著作『遠客珍聞』に掲載の人物についての現地調査も行った。

松森胤保の著作のうち、松森写真館所蔵の資料について、ものの蒐集に関する『家蔵五玩雑録』5冊、および、生物の蒐集に注目し、『大泉珍禽図譜』を調査対象とした。さらに、調査の中で、『家蔵五玩雑録』に類似した息子の又次郎と昌三による日記と蒐集記録2冊が見つかったため、これらも対象に含めた。これらの資料について、写真撮影を行い、画像データから、翻刻と内容の分析を行った。松森写真館所蔵資料の調査の中で、松森胤保の日記が大量に確認されたが、日記については、一部の写真撮影は行ったが、著作とは異なり、文字が読みづらく、また反故紙を綴じていることなどから、画像データでの解読、翻刻は研究期間内には難しいと判断し、今回は行わなかった。

4. 研究成果

(1) 『家蔵五玩雑録』にみる蒐集物の変遷

本研究では、松森胤保著作のうち、蒐集物の記録である『家蔵五玩雑録』全5冊の翻刻作業を行った。巻一、巻三、巻四、巻五の4冊については概要の翻刻を終えた。巻二については、当初の題が『五寶図譜』となっており、考古資料の蒐集記録として『五玩雑録』巻一・巻三と同様の時期における考古遺物の蒐集記録であった。生物の蒐集を対象とした本研究とは直接関係がないものとして、今回は翻刻作業の範囲に含めなかった。

『家蔵五玩雑録』に記された蒐集物の内訳について表の通りである。彼は、蒐集物を5つに分類していた。巻一に相当する江戸期から明治初期には昆虫類や鳥類の羽などの「虫禽」に相当するものを自らの足で採集したり、貝殻や植物などを知人や近所から譲り受けたりすることによる入手であった。明治10年代になると、蒐集物は石器や土器、瓦などの人工物が中心となり、毎日のように採集活動に出かけているが、採集対象は石器や土器、古瓦であった。また、「玉石」に相当する鉱石や宝石類は採集や知人からの交換のほか、購入による入手も多くなっていく。鳥類や貝類についても、羽、嘴などの部分を購入することが多くなっており、博物館の収蔵資料としての蒐集が意識されていたと考えられた。

表 『家蔵五玩雑録』に記された蒐集物（巻二を除く）

	巻一	巻三	巻四	巻五	合計
玉石（化石も含む）	72	65	146	35	318
貝螺	18	8	13	12	51
草木	23	26	20	13	82
禽虫	44	25	9	31	109
人巧（同時代のもの）	13	7	2	6	28
人巧（石器など古物）	0	29	59	40	128
合計	170	160	249	137	716

（2）明治期の松森胤保の蒐集に関わる交友関係

鶴岡や松山を訪れた人々との交遊

松森胤保の『遠客瑣聞』（酒田市光丘文庫蔵）は、松森胤保が鶴岡や松山で交流した国内外の人物との交流記録である。明治10年代の交流を中心に、松森晩年までの交流のなかで、彼にとって特筆すべき交流が記録されている。『遠客瑣聞』では博物館関係者のホーリとダリベルとの交流として記録されているフランス人牧師タリベルについて、『家蔵五玩雑録』巻五では、中に名刺が挟み込まれ、彼から入手した鏝についての記録があった。彼等の詳細について明らかにすることは出来なかったが、パリ博物館の関係者が松山において、松森胤保と植物図譜を評価したという記録は注目される点であり、今後、植物学研究からの視点が求められる。

また、『家蔵五玩雑録』にも、友人の羽柴雄輔をはじめ、多数の人物が登場するが、羽柴が蒐集仲間として頻りに登場するのは巻三以降である。また、『遠客瑣聞』から、高知の古銭研究家にして博物学者の今井定吉との交流があったことがみえるが、彼との交流から得た情報等については、今後の課題としたい。好古家との交流や近代好古における松森胤保の位置づけなど、生物だけではなく、考古資料や古銭等の蒐集物についての交友関係については、彼の弟が古銭収集家であることもふまえ、今後さらに調査する必要がある。

松森胤保の息子たちの蒐集記録

松森胤保の長男・又次郎と次男・昌三はそれぞれに父親と同様の収集日記をつけて残している。また、彼等は胤保に連れられて松山周辺の石器や土器の収集も好んで行っていたようである。自宅では植物の栽培や鳥類の飼育を好んで行っていたことが、胤保の記録や当家に伝えられた伝承より確認出来た。息子の昌三の蒐集記録『日記二』は、明治10年代の蒐集記録であり、胤保の蒐集記録『家蔵五玩雑録』巻三の時期と重複している。両書に記載されている蒐集物にも重複する者があり、明治11年2月17日のミミズクを手に入れて剥製にした記録は両書にみられたが、息子の方は、父親の書をまねたようであった。『日記二』に記載のミミズクの図は、胤保の鳥類図譜『大泉鳥類図譜』に記載された、このときのミミズクの図とそっくりに描かれているが、息子の方はミミズクの足の爪を3本に増やしていることから、胤保ほどには、対象を観察していなかったと推測された。

（3）『家蔵五玩雑録』巻一翻刻資料集の作成

『家蔵五玩雑録』巻一についてのみ、『松森胤保の蒐集活動』『家蔵五玩雑録』巻一の蒐集物』として翻刻資料を刊行することが出来た。巻一には、彼が幼少の頃に集めたものの記録の他、幕末に付家老として江戸に詰めていたときに購入したり、知人から貰ったりすることで蒐集したものの記録となっている。この時期は、自ら採集にでることは少なく、知人から貰うことが主流となっている。また、彼にものを提供したり、交換したりする知人は、仕事上の付き合いである人物も多いようであった。政治的な交流のなかで入手した異国の品などの記録がある。

明治になると、知人からの入手よりも、鶴岡市内の古物商や東京で購入したり、郊外に出て積極的に採集活動を行ったりしている。蒐集に関わる人物として、おじや息子ら家族とは、共に採集活動をおこなっていたことがみられるが、知人や仕事上の関係者からも石などを手に入れたり、交換したりしていることがみえる。磯野（1988）にあるように、蒐集活動は松山という地域性によるところも大きく、また、蒐集活動自体は、松森胤保の個人的なまたは家族だけで楽しむ行為ではなく、地域、特に松山において同好の者が多数存在していたことが、『家蔵五玩雑録』から読み取れた。

翻刻資料集は、現代語訳は付さなかったものの、鶴岡や松山の名刹や寺社、河川、通りなどの地域の名称が多く出現する。地域の人々にとって、彼の蒐集活動の一端、特に地域資料の採集活動について追体験することが可能となる。

『家蔵五玩雑録』全五冊を読み、翻刻作業を進めてきたが、その過程で、『大泉鳥類図譜』（松森写真館蔵本）や『日記』に、蒐集時の詳しい様子や蒐集物に対する詳しい考察を載せているとしている資料がいくつもあった。今後の課題として、松森胤保の蒐集活動の動機や実態をより明らかにするには『日記』の翻刻と解釈が必要になる。今後の研究では、『日記』の分析を中心に、松森胤保の行動を追うことで明治期における地方科学者の活動や自然観を明らかにすることが

できると考える。また、『家蔵五玩雑録』についても、一部の文字や文章が読みづらく、意味の取りづらい文章もあったため、第二冊以降の翻刻については刊行していない。これらについては、松森胤保の全体の蒐集活動を把握するための資料集として今後、全冊の翻刻資料の刊行が必要となる。

引用文献

- 1) 磯野直秀解説(1988)鳥獣虫獣譜 松森胤保[両羽博物図譜の世界] 博物図譜ライブラリー2, 八坂書房。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 安田容子	4. 巻 52
2. 論文標題 松森胤保の博物図譜作成へむけた蒐集活動 - 『家蔵五玩雑録』の蒐集記事から -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キリスト教文化研究所研究年報 民俗と宗教	6. 最初と最後の頁 135-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 安田容子
2. 発表標題 松森胤保の蒐集活動と生き物
3. 学会等名 生き物文化誌学会第15回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安田容子
2. 発表標題 松森胤保の自然物蒐集～『家蔵五玩雑録』に記された蒐集物～
3. 学会等名 日本科学史学会東北支部第163回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoko YASUDA
2. 発表標題 Collecting and Breeding Animals in one of local area in 19th Century Japan: analysis of Matsumori Taneyasu's Private Written Works.
3. 学会等名 The Fourth Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 安田容子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 蕃山房	5. 総ページ数 105
3. 書名 松森胤保の蒐集活動『家蔵五玩雑録』巻一の蒐集物	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----